



上田法国際インストラクターで、※IPNFA 認定インストラクターの勝浪省三先生を講師にお招きし、「痙性麻痺に対するアプローチ -動的システム論からみた展開-」というテーマで研修会を開催しました。

上田法は 1988 年に小児整形外科の医師である上田正氏により開発された筋過緊張に対する治療法ですが、運動の動的システム論を用いることで、痙性麻痺を過剰な身体内協応構造により動作改善に支障をきたしている状態と仮設し、過緊張にある筋群をむやみに伸張しないで短縮位にして保持し、その後伸張することにより筋紡錘の興奮を抑制し筋緊張や痛みを改善する効果が得られる方法であると説明されていました。

PNF は加重、抵抗、等尺性収縮後弛緩など既に証明されている事実を基に作り上げられた治療法で、筋連鎖を考慮しながら筋力/安定性を向上させる方法であることを、分かりやすく解説して頂きました。

特に ADL や歩行動作改善には、動作筋を鍛える上での固定筋群強化の重要性や、単関節の 2 次元的な運動療法ではなく、3 次元を意識した運動療法が重要であることを強調されていました。

また、ドイツへも渡航経験が豊富な先生から、治療技術先進国であるドイツ理学療法の状況も解説して頂きました。(西多摩地域リハビリテーション支援センター 長田)



※国際PNF協会(International Proprioceptive Neuromuscular Facilitation Association)

の略称。PNFは日本語で固有受容性神経筋促通法と訳されます。